

会計リテラシー・マップ

日本公認会計士協会

ライフステージ



資産・負債を記録・管理する技術

財務諸表を活用する技術

貸借対照表および損益計算書の理解 ・ 発生主義会計の理解

利益計算の理解

現金収支を記録・管理する技術

ライフプランに基づき、生涯にわたる資金収支計画を作成・実行し、必要に応じてそれを見直す技術

アカウントビリティの理解

記録・報告には、誠実、公正、信頼が伴う

(受託者が自らの行動を記録し、委託者に報告する責任)

(報告すること)

会計リテラシー

主な収入源

家計管理・生活設計
(個人・家族)

社会生活



「会計リテラシー・マップ」の構成・見方

「会計リテラシー・マップ」は、国民が身に付けるべき会計リテラシーの内容を具体化し、各ライフステージ別（横軸）にマッピングしたものです。ライフステージの区分とそれぞれの区分の捉え方は、会計リテラシーが不可欠な要素と考えられる金融経済教育においても活用できるようにすることを念頭に、「金融リテラシー・マップ」¹と整合性をもたせています。マッピングに当たっては、「家計管理・生活設計（個人・家族）」及び「社会生活」という2つの領域（縦軸）を設けています。

「会計リテラシー・マップ」の作成に当たり、国民が身に付けるべき会計リテラシーの内容について、以下を設定しました。

- アカウンタビリティの理解
- 現金収支を記録・管理する技術
- 利益計算の理解
- 貸借対照表及び損益計算書の理解・発生主義会計の理解
- 財務諸表を活用する技術
- 資産・負債を記録・管理する技術

「会計リテラシー・マップ」の上段に、ライフステージが進むにつれて段階的に身につけるべき内容として、これらを階層的に示しています。そこでは、[アカウンタビリティの理解]を1番下に配置することによって、[アカウンタビリティの理解]がこれら会計リテラシーの最も基礎的なリテラシーであり、かつ、会計リテラシー全体の基盤となっていることを示しています。

文部科学省から公表されている学習指導要領等は、学校教育法に基づき国が定める教育課程の基準であり、教育の目標や指導すべき内容等を体系的に示していません²。各学校は、学習指導要領等に基づき、その記述の意味や解釈などの詳細について説明した教科等別の解説を踏まえ、教育課程を編成し、年間指導計画等や授業等ごとの学習指導案等を作成しこれを実施しています³。このような学校教育の実態を踏まえ、会計リテラシー・マップは、高等学校以下の学校教育段階における学習指導要領等で示されている内容との整合性にも留意して作成しており、このことがわかるよう、マップ上に各教科との関連性を示しています。

¹ 2015年6月改訂版（金融経済教育推進会議2016年1月公表）

² 文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会（第100回）配付資料「資料1 教育課程企画特別部会 論点整理」（平成27年10月19日開催），2(1)新しい学習指導要領の在り方について

³ 脚注1と同じ。